



TITLE:

静脩 Vol. 30 No. 4 (1994.3) [全文]

AUTHOR(S):

---

CITATION:

静脩 Vol. 30 No. 4 (1994.3) [全文]. 静脩 1994, 30(4)

ISSUE DATE:

1994-03

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/66012>

RIGHT:

## 情報環境の整備と電子図書館

工学部教授 長 尾 眞

## 1 情報環境の変化

最近小説家でもワープロを使って書き、フロッピーディスクや電話線を経由して小説を出版社に送る人が増えて来ているという。学生はレポートを電子メールシステムで先生の計算機に送り込むという形でレポート提出をする講義もあちこちの大学で行なわれるようになって来た。学術論文を国際的な電子メールシステムに乗せて投稿し、それが査読者に電子的に送られ、受理された論文の発表も計算機上で行なわれるというのは我々の世界では当たり前になっている。世界各地の図書館で目録などが電子化され、日本からもこれらを自由に検索できるようになっていることは想像以上で<sup>1)</sup>その活用法を知っているといえないとでは決定的な差が出て来ることになるだろう。

出版は既にCD（コンパクトディスク）で行なわれるようになってきている。そのうちに毎日の新聞は電子的に配達され、電子ブック的な形のポータブル装置の上で読むという時代になるだろう。これは世界の紙資源（木材）が枯渇することと、新聞配達の人が傭えなくなることからそうならざるを得ないのである。情報が電子化される傾向は文字の世界だけでなく、音や写真、映像（テレビや映画）の世界にも広がり、こういったマルチメディア情報が全て計算機に入れられ、あるいは計算機で作られ、計算機ネットワークを経由して欲しい情報がいつでもどこでも自由に入手できるという情報環境の時代が来るだろうと言われている。

2 電子図書館<sup>2)</sup>

図書館が収集し利用に供する対象が、本や雑誌の形態でなくこのような電子的な形で生産されるようになって来ると、それを受け入れる図書館自体の構造が抜本的に変わって行かざるを得ない。これから出版されるものは電子的なものであるから、電子納本が行なわれるという時代が来るだろう。電子納本の場合には、その検索と利用の仕方が本で納本される場合に比べて格段に自由であり、図書館側も手間が省ける。関西文化学術研究都市に近く設立されようとしている国立国会図書館関西館は、このような21世紀の情報社会における電子図書館を目指して構想が立てられ、具体化への検討が進んでいる。大学の研究室や各家庭から自由にこの電子図書館を呼び出し、自分の必要とする図書・資料を瞬時に手元のパソコンに取り出して来れると言うわけである。

その時代のパソコンは現在のものとは全く違ったマルチメディア対応の優れた能力を持つものになっていることは確実である。本と全く同じイメージを画面に取り出すことが出来、必要に応じて挿入されるものはカラー写真だけでなく動く映像の場合もある。読むのが面倒な場合には機械が朗読して聞かせてくれる。分からない言葉が出てくるとすぐ辞書引きした結果も並行して見せてくれるし、関連資料などもすぐ引き出せるという、いたれりつくせりのシステムが実現しているだろう。これは夢物語ではなく、実験的なものは既に開発されている。

### 3 京都大学における情報環境の整備と教育

このような理想的な状況が広く実現するのは紀元2010年あたりまで待たねばならないかもしれないが、現在でもある程度のことは出来る。またこのような情報環境の整備は日進月歩の勢いで進んでいるから、これを積極的に利用するかしないかでいやおうなく大きな差が出て来ることになるだろう。京都大学は全国の国立大学に先駆けて1990年1月学内に高速情報通信網（通称KUINS）を完成させ、学術情報利用の基礎を整備した<sup>3)</sup>。今日では数千台のコンピュータがKUINSに接続され、学内はもとより、国内・国外との情報のやりとりに日夜使用されている。しかし既に述べて来たような情報環境を作ることは急務であり、またこれを十分に活用するためには、大学全体として次のようなことを積極的に推進して行く必要があるだろう。

#### (a) 新しい情報環境利用のための教育の推進

- ・全学生にコンピュータ利用能力をつけさせる。レポートなどを電子的に送ったり、電子メール討論が自由に出来る能力をつけさせる。
- ・電子図書館や学術情報データベース活用の能力をつけさせる。(図書館情報利用法、データベースの種々とその検索法、情報分類の体系とハイパーテキスト検索等を含む教育)。
- ・マルチメディアシステムを利用した種々の教育システムを開発し、多人数教育ではあっても個人に合った教育が受けられるようにする。これは特に語学教育に有効であり、新しい概念のランゲージラボを提供する。

#### (b) 学内における情報環境の整備の推進

京都大学には既に種々の学術情報が電子化されており、多くの研究論文が計算機を使って書かれているので、これらをKUINSネットワークに接続して積極的に公開することが望まれる。京都大学便覧や教官

名簿、教官の研究分野などの冊子も電子化し、研究論文などと共に電子的に蓄積し公開すれば、京都大学電子出版発信局の誕生である。

- ・附属図書館を中心とする図書館の持つ情報を少しずつでもよいから出来るだけ速やかに電子化し、高度の情報サービスを提供することによって、利用者自身が必要な情報を自分で検索して自分の情報端末で自由に見ることが出来るようにする。
- ・そのためのKUINSの性能向上と優れた機能を持つマルチメディア端末の導入への努力はいうまでもないことである。

このような形で京都大学の持つ学術情報を広く全世界に発信することによって学問の進歩に貢献することも我々にとって大切な使命ではないだろうか。

1) 例えば、最近の雑誌「情報の科学と技術」44巻1号(1994年1月号)に次のような興味ある論文がある。

戸田慎一：ネットワーク情報資源と図書館・情報サービスの将来

宮崎智：インターネットの公開情報サービスの使い方

佐藤義則：インターネットの利用と大学図書館

広田とし子：インターネットの使い方——大学図書館における活用事例——

2) 電子図書館研究会：電子図書館の未来の姿、1993年12月（この研究会は筆者を含む数名の研究者が3年前から行なっている私的研究会、1994年秋に電子図書館のデモンストレーションを行なう予定）

3) KUINSは京都大学学術情報ネットワーク整備委員会の意向をうけて、京都大学学術ネットワーク機構が運営している。大型計算機センターの中に事務局がある。

## お知らせ

### 図書館利用証を発行します

附属図書館と総合人間学部図書館は、自動入退館システムと、コンピュータ貸出方式（開架図書のみ）をとっており、附属図書館で発行する図書館利用証は、両館の入館証と貸出証を兼ねるものです。また理学部中央図書室の図書の貸出も出来るようになっていきます。

利用証の有効期限は、身分証の有効期限に準じて設定していますので、発行には、申請用紙に氏名、住所等を記入の上、身分証（学生証）の提示を必要とします。

学部学生と修士課程院生は、入学・進学の際の名簿を元に利用証を一括作成してありますので、申請用紙記入後、即時に利用証を受け取る事が出来ます。平成6年度の新入生・新院生の利用証の交付は入学

式の翌日4月12日（火）から開始する予定です。利用案内に挟んである「京都大学図書館利用証交付申請書」に必要事項を書き込み、学生証と共にをお持ち下さい。下記の期間は新入生・新院生を対象とした利用証交付カウンターを設置します。

期間：4月12日（火）～4月28日（木）

9時～12時、13時～16時45分

場所：附属図書館1階

また、前年度以前に入学・進学された方の利用証も作成して保管してありますので、未だ交付を受けていない方は、図書館にお立ち寄りの際に申請して下さい。

上記以外の方（教職員、博士課程院生、研修員、聴講生等）の新規発行と、在籍期限更新による再発行の場合は、利用証作成までに1週間程かかります。利用証の発行申請・交付は下記の時間帯に受け付けています。

時間：月～金 9時～11時45分、13時～16時45分

場所：附属図書館1階 インフォメーションカウンター

利用証を紛失した時は、他者の利用を防ぐ為に必ず「紛失届」を出して下さい。約2週間後に新しい利用証を発行します。また、「紛失届」を出した後、利用証が見つかった場合も必ず届け出て下さい。所属（学部）、姓、住所・電話番号等を変更した時も届を出して下さい。尚、紛失した利用証や旧利用証で、附属図書館または総合人間学部図書館の図書が貸出中の場合は、新しい利用証が作成出来ませんので注意して下さい。

入館の際には必ず利用証を入館機に通して下さい。矢印の方向に正しく挿入してもエラーメッセージが出る時や、入館機の中に利用証が引っかかる時は、利用証を作成し直す事が出来ますので、遠慮無くメインカウンターまで申し出て下さい。（資料運用掛）

### 新入生オリエンテーションのご案内

昨年度より始められました新入生向けの図書館オリエンテーションが、今年度も下記日程にて開催されます。このオリエンテーションは、ともすれば授業の空き時間や試験時の自習などの、固定的な利用に偏ってしまいがちな図書館の様々なサービス・利

用法をお知らせするために開くものです。オリエンテーションの一環として、利用者用目録（＝OPACという）の検索方法の説明会も開かれます。大学生生活の4年間を楽しく、また有意義なものとするためにも、図書館を積極的に活用しましょう。新入生のみなさん、また興味のある方はどなたでも、ふるってご参加下さい。

#### 【開催日時・場所】

第1部 附属図書館利用案内

日時：4月19日（火）～4月21日（木）の毎日2回

1回目 11:00～11:40

2回目 15:00～15:40

場所：附属図書館AVホール

第2部 OPAC / ILIS検索説明会

日時：4月25日（月）～4月27日（水）の毎日

15:00～15:30

場所：附属図書館カウンター前

#### 【開催内容】

第1部

図書館利用案内ビデオ

利用方法の説明

貸出・返却・予約・更新等

本の探し方（カード・OPACの見方）

他大学相互利用

ビデオ・テープの利用方法

アンケート調査

第2部

OPACの検索方法・データの見方

（参考調査掛）

### テレックスサービスを終了します

かねてより参考調査掛にて利用していただいております国際テレックスの送受信サービスは、国際ファックス等の普及にともない年々その利用が減少し、平成5年度もわずかの利用にとどまりました。そのため附属図書館では、平成6年3月をもってテレックスサービスを終了することになりました。

長い間ご利用いただきありがとうございました。

（参考調査掛）

## 蔵書紹介

### 附属図書館所蔵「清原家家学書34種」

本学は明治30年の創設以来、平成9年に百周年を迎えます。記念事業として、百年史の編纂をはじめいくつかの事業が計画されています。本誌でも、これを機会に、本学がこの百年の間に収集してきた特徴ある蔵書を、随時紹介していくことになりました。ご愛読のほど、よろしくお願いします。

最初は、前号の興膳教授の巻頭記事や、展示会報告でふれられている「清原家家学書34種」を紹介します。

本館は現在39点の重要文化財を所蔵しています。この「清原家家学書34種」はその中の一点で、特殊文庫である清原文庫の中に収蔵されています。本文庫は、昭和26年より3か年にわたって、船橋清賢氏から受贈ないし購入した2,589冊の希覯本からなり、清原文献としては質量ともにわが国に誇るコレクションです。

家学とは、「ひとつの家で世代から世代へとつたえられる伝統的学問」（平凡社大百科事典）で、これを伝えて来たのが家学書です。

船橋家は、平安初期の学者、政治家で右大臣の清原夏野（782－837）から27世の子孫にあたる小納言船橋秀賢（1575－1614）を家祖としており、代々明経博士をもって経書を講じた儒家の名家です。このことは、興膳教授が前号にわかりやすく紹介されています。

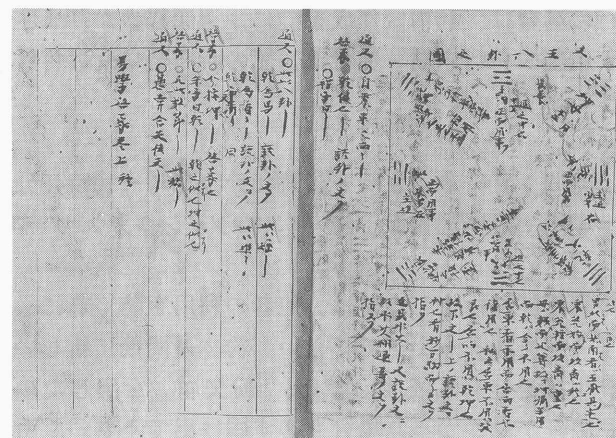
「清原家家学書34種」は昭和27年に重要文化財に指定されましたが、その内容は以下のとおりです。

御注孝経残卷、古文孝経、易学啓蒙抄、  
易学啓蒙通釈、易学啓蒙通釈口義、命期秘伝、  
尚書聴塵、毛詩、左伝聴塵、大学、論語、  
論語（清家証本）、論語義疏、孝経抄、  
史記抄、漢書抄、標題補注蒙求、六韜、  
六韜秘抄、司馬法、三略秘抄、三略抄、  
三略講義、孝子伝、長恨歌并琵琶行秘抄、  
拾芥抄、年中行事、新古今注、塵芥、  
聚分韻略、宣賢卿字書、中庸、周来疏单疏本、  
孝経述義

この中の多くが、興膳教授も紹介しておられる清原宣賢の自筆になるものです。清原家家学の大成者

であると同時に、室町時代を代表する経学者として知られている宣賢は、文明7年（1475）、吉田（卜部）兼俱の第3子として京都に生まれ、明経博士宗賢の猶子となり、その学統を継承しました。和漢の学に通じ、主水正、大炊頭を歴任して少納言侍従に進み、後柏原、後奈良両帝の侍読を拝しました。天文年間（1532－1555）に、越前一乗谷の朝倉氏に招かれて、孟子、日本書紀等を講じ、天文19年（1550）に、その地で客死しました。行年76才でした。

写真は、修復が完了して今年度の展示会にも出陳した、宣賢筆の「易学啓蒙抄」です。ここにいう「抄」とは、講義のためのノートを意味しています。



宣賢は、新注を参酌した祖父の業忠と同じく、宋儒の易学に傾倒しました。周易の抄物としては、足利学校出身の柏舟の「周易抄」や、五山僧桃源の「百衲襖」が著名です。いずれも「易学啓蒙」に大いに依拠し、宣賢の易学にも大きな影響を与えました。桃源は、柏舟の書をふまえて易学を集大成しましたが、業忠に「易学啓蒙」を学んでおり、清原家と密接な関わりがありました。

（雑誌・特殊資料掛）

## 京都大学附属図書館年間利用統計(平成4年度)

I. 蔵書数 738,790 冊 (和書 485,834 冊、洋書 252,956 冊)

★開架図書 74,519 冊 (和書 68,039 冊、洋書 6,480 冊)

★雑誌タイトル数 19,363 種 (和雑誌 9,227 種、欧文雑誌 10,136 種)

★参考図書 21,500 冊

II. 利用対象者(登録者)数 23,842 人  
(平成4年9月30日現在)

内訳	教職員	5,586 人
	院生	4,039
	学生	13,280
	その他	937

III. 年間入館者数 632,223 人

内訳	学内	入館機	626,761人
		マニュアル	3,054
	学内	閲覧	1,236
	学外	見学	1,172

IV. 年間総利用冊数, 利用人数(5年間推移)

年度	昭和63年	平成元年	平成2年	平成3年	平成4年
利用冊数	113,136	120,034	122,353	120,740	120,814
利用人数	51,330	53,353	53,705	53,659	55,027

V. 貸出利用状況 [貸出対象者: 本学学生及び教職員]

年間貸出冊数	90,689冊
年間貸出者数	47,976 人

(普通図書と雑誌の合計)

普通図書

★開架図書と書庫内図書の貸出構成比

和書	開架図書	68,424 冊	88.5%
	庫内図書	8,870	11.5%
洋書	開架図書	1,403	71.0%
	庫内図書	572	29.0%
計	開架図書	69,827	88.1%
	庫内図書	9,442	11.9%
総合計		79,269	100.0%

※開架図書: 利用度の高い  
新しい図書、7万5千冊  
庫内図書: 古い図書及び  
新しいものでも専門  
的な図書

★部局別貸出利用状況

	文	教育	法	経済	理	医	薬
貸出冊数	18443	3602	7772	5468	11746	1988	1314
貸出人数	9304	1932	4572	2767	6875	1076	706
	工	農	教養	医短	研セ	その他	合計
貸出冊数	19726	4385	868	653	1572	1732	79269
貸出人数	11080	2389	376	326	732	655	42790

★ 身分別貸出利用状況

	教官	職員	院生	研修員等	学生	聴講生等	合計
貸出冊数	3927	2261	15248	3380	52443	2010	79269
貸出人数	1567	942	7657	1569	30018	1037	42790

★ 分類別貸出利用状況

	法政	経済	産業	社会	教育	歴史	哲宗	芸術	言文	合計
利用冊数	6298	4180	985	3070	2380	7375	5497	2644	9591	79269
	数物	機械	化工	生物	人類	学術	図書	同和	その他	
利用冊数	18218	3432	4601	3873	4491	1215	530	183	709	

雑誌

年間貸出冊数	11,420 冊
年間貸出者数	5,186 人

Ⅵ. 閲覧(一時貸出)利用状況 [学内者・学外者]

	利 用 冊 数			利 用 人 数		
	学内	学外	合計	学内	学外	合計
普通図書	※	4,542	4,542	※	732	732
雑誌	※	3,236	3,236	※	948	948
新聞	9,809	990	10,799	1,239	96	1,335
貴重書	1,480	4,917	6,397	165	209	374
マイクロ	287	62	349	128	22	150
A V 資料	2,365	- - -	2,365	2,015	- - -	2,015
参考図書	2,348	89	2,437	1,443	54	1,497
合計	16,289	13,836	30,125	4,990	2,061	7,051

※ : 学内者の一時貸出は貸出扱い

- - - : A V 資料は学内者の利用のみ

Ⅶ. 情報検索

★ 文献調査 22,267 件

★ 代行検索 807 件

	DIALOG	JOIS	STN	NACSIS-IR	FAIRS
件数	87	27	3	388	302

★ O P A C 利用状況

I L I S : 図書館利用者用専用端末

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
件数	911	1123	1009	1036	508	868	1132	1001	848	918	851	837



## OPAC/TSS : 研究室利用の一般端末

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
接続回数	195	129	143	211	175	261	245	238	131	256	321	249
接続時間	53	31	65	88	42	61	51	55	37	54	85	60
利用人数	121	83	100	128	115	149	156	151	85	134	162	148

## Ⅷ. 相互利用

★他大学図書館訪問利用 994 件★現物貸借 1,426 件

借	借用	404
用	謝絶	109

貸	貸出	578
出	謝絶	335

★文献複写 15,315 件

1) 対国外

依頼	147
受付	0

2) 対国内

依頼	受付	1,944 (1,246)
	謝絶	147 (77)
受付	受付	8,863 (5,238)
	謝絶	1,582 (1,076)

3) 学内

依頼	学内ILL	1,196
受付	学内ILL	965
	その他	471

( )内はNACSIS-ILLシステム使用数:内数

★複写形態別内訳(受付)

電子複写	105,273 枚
マイクロリーダープリンター	24,004 枚
マイクロフィルム	23,613 シート

## Ⅸ. 土曜日開館に関する利用統計

平日と土曜日の比較(開館日数: 平日220日、土曜日37日)

	入館機による入館者数(人)			普通図書貸出冊数(冊)			普通図書貸出人数(人)		
	平日	土曜	計	平日	土曜	計	平日	土曜	計
	581,785	44,976	626,761	74,024	5,245	79,269	39,953	2,837	42,790
1日平均	2,644	1,216(平日の46%)		336	142(平日の42%)		182	77(平日の42%)	

(平成4年度京都大学附属図書館年間利用統計より抜粋)



## 図書館の動き

### 近畿地区国公立大学図書館協議会シンポジウムの開催

標記のシンポジウムが「高度情報ネットワーク時代の図書館サービス」をテーマに平成6年2月9日、本学附属図書館AVホールで開催され、学内外から129名の参加者がありました。

シンポジウムでは、最近いろいろ話題になっているインターネットと図書館の関わりなどにも触れられ、熱心な質疑応答も行われました。プログラムの内容は以下の通りです。

- 「研究者と電子図書館」  
京都大学工学部教授 長尾 眞
- 「情報ネットワークの進展と大学図書館」  
図書館情報大学教授 原田 勝
- 「電子図書館実験システムの開発」  
光華女子大学助教授 谷口敏夫
- 「京都大学図書館システムの現状」  
京都大学附属図書館専門員 隅田雅夫

### 雑誌目録担当職員システム研修の開催

平成6年2月21日から23日にかけて標記の研修会が附属図書館地域共同利用室で開催され、学内の部局図書室から30名の受講者がありました。

### 図書館職員研修会の開催

標記の学内研修会が「和古書の話」をテーマに平成6年3月8日と16日に開催されました。3月8日の第1回は人文科学研究所附属東洋学文献センターの勝村哲也助教授を講師に迎え「和漢書」の研修が、3月16日の第2回は総合人間学部の上横手雅敬教授を講師に迎え「和書」の研修が行われ、のべ55名が受講しました。

### 研修への参加

今年度行われた研修とその本学参加者は以下の通りで

## 目 次

### <巻頭記事>

情報環境の整備と電子図書館…………… 1

### <お知らせ>

図書館利用証を発行します…………… 2

新入生オリエンテーションのご案内…………… 3

テレックスサービスを終了します…………… 3

### <統計>

附属図書館年間利用統計（平成4年度）…………… 5

す。

### 大学図書館職員長期研修

7月19日～8月6日：図書館情報大学他

松田博（総合人間学部）

### 総合目録データベース実務研修会

9月27日～10月22日：学術情報センター

忽那一代（附属図書館）

### 大学図書館職員講習会

11月9日～11月12日：大阪大学

渡邊誠（法学部）

池田千恵子（工学部）

小泉淳子（工学部）

北川昌子（工学部）

### 目録業務システム専門委員会の開催

本学を主査とする標記委員会（第3回）が平成6年2月15日に附属図書館研修室で開催されました。本年度最後の委員会となった今回は、前回までの討議の集約および次年度の活動方針についての討議が行われました。

### 近畿北部地区国立大学図書館機械化連絡会議の開催

平成6年3月11日、7大学の事務（部）長、課長、担当掛長等18名が参加して、標記の会議が附属図書館において開催されました。本会議は、近畿北部地区の図書館システムとネットワークの現状や課題等について報告、意見交換を行うもので、毎年開催（昨年は諸般の事情により中止）されています。

なお、本会議のもとに実務担当者を構成員とする「ネットワークシステム小委員会」が設置されており、年に数回、運用上の問題等について協議しています。

### <蔵書紹介>

附属図書館所蔵「清原家家学書34種」…………… 4

### <図書館の動き>

近畿地区国公立大学図書館協議会シンポジウムの開催…………… 8

雑誌目録担当職員システム研修の開催…………… 8

図書館職員研修会の開催…………… 8

研修への参加…………… 8

目録業務システム専門委員会の開催…………… 8

近畿北部地区国立大学図書館機械化連絡会議の開催…………… 8

## 後 記

前号掲載の写真のうち、蔵書印の押印箇所の適切でないものがあり、工学部のH教授よりご注意をいただきました。押印当時（昭和28年）の事情は詳らかではありませんが、貴重な資料を損ねることのないよう、今後とも万全の注意を払うつもりです。

図書館は電子化情報の出現などで大きく変わろうとしています。ご意見などお寄せください。（す）

親しみやすく、図書館に興味を持ってもらえるような館報をと思っていましたが、短い間でこれといったことも出来ませんでした。

けれど、編集に携われて何かと興味深かったです。

新年度を迎えるこの季節、気分を新たに今後は読者として静脩の発行を楽しみにしています。（は）